

## 第2次糸魚川市環境基本計画

# 令和4年度 進捗状況報告書

令和5年1月25日

ここでは、5つの施策（基本目標）ごとに掲げた数値目標と、市の役割として設定した取組の中から、主な活動を抜粋し、進捗状況を説明しています。

報告書の数値目標の表中で報告する数値については、現時点で把握できる直近の数値を用いています。

## 基本目標 1 地球にやさしい人が育つまち =地球環境=

### ■数値目標

環境指標	策定時	目標 (2023 年度)	前回 報告数値	今回 報告数値
CO <sub>2</sub> 排出量 (単位：千 t-CO <sub>2</sub> )	557.1 (2013 年度)	412.3 (2030 年度)	416.0 (2018 年度)	399.0 (2019 年度)
新規就業者数（林業）	2 人 (2015 年度)	22 人 ※2015 年度 から累計数	17 人 (2020 年度) ※同左	19 人 (2021 年度) ※同左
再生可能エネルギー利用 公共施設数	34 施設 (2018 年度)	40 施設	34 施設 (2021 年度)	34 施設 (2022 年度)
市民の再生可能エネルギー 設備の導入状況	217 件 (2018 年度)	230 件	223 件 (2020 年度)	229 件 (2021 年度)

#### 【詳細説明】

- ・「CO<sub>2</sub>排出量」は、目標数値を達成しました。
- ・「新規就業者数（林業）」は、森林の多面的機能を維持するため、年平均 2.5 人の新規就業者を目標としており、2021 年度は計画値を達成しています。
- ・「再生可能エネルギー利用公共施設数」は、新規設置がなかったため、昨年と同数となっています。
- ・「市民の再生可能エネルギー設備の導入状況」の件数は、補助制度利用件数の累計であり、2021 年度は太陽光発電設備で 1 件、太陽熱温水器で 2 件、ペレットストーブ設備で 3 件の利用がありました。

### ■市の取組

取組方針	1 地球温暖化の緩和策の推進
施 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や事業所に対し、創エネルギー・省エネルギー・断熱に優れ、住宅やビルの一時エネルギー消費量を実質ゼロにする ZEH(net Zero Energy House)や ZEB(net Zero Energy Building) の普及促進を図ります。</li> <li>・住宅の建築時の地場産材の利用の促進や、散策路などの整備時に間伐材の利活用を促進します。</li> </ul>

<b>実施内容</b>
・民間団体による糸魚川の地場産材を使った省エネ住宅の基準づくりや普及の取組みが進んでおり、当市もこの取組みに対し支援を行っています。

<b>取組方針 2 地球温暖化の適応策の推進</b>
<b>施策</b>
・地球温暖化の影響で起こりうる、集中豪雨の増加や異常高温に対しての適応策を収集し、市民・事業者を提供するとともに、周知徹底を図ります。
<b>実施内容</b>
・広報いといがわ 12月号では、「脱炭素社会の実現に向けて」と題して、国や世界が目指すカーボンニュートラルについて、周知を実施しました。 ・また、市のホームページでは、国や県が取組む環境や地球温暖化対策に関する情報を随時掲載しています。

<b>取組方針 3 再生可能エネルギーの導入促進</b>
<b>施策</b>
・再生可能エネルギーを利用した発電事業を検討している事業者に対し、関係者との調整を行います。
<b>実施内容</b>
・昨年度に引き続き市民向けに水力発電の懇談会を実施しました。 ・今年度はマイクロ水力発電の仕組みや発電電力の活用例、また、県内で水力発電事業を展開する3事業者から、導入事例等の紹介、再生可能エネルギーを用いた地域活性化などを懇談する場として開催しました。

**基本目標2 生きものと大地の営みを感じるまち =自然環境=**

■数値目標

環境指標	策定時	目標 (2023年度)	前回 報告数値	今回 報告数値
新規就農者数	6人 (2015年度)	38人 ※2015年度からの累計数	37人 (2021年度) ※同左	42人 (2022年度) ※同左
認定農業者数	165人 (2015年度)	200人	140人 (2021年度)	140人 (2022年度)

### 【詳細説明】

- ・「新規就農者数」は、安定的な農業経営を目指すため、年平均 4.3 人の新規就農者を目標としており、2022 年度は計画値並びに目標数値を達成しました。
- ・「認定農業者数」では、新規認定がなく、農業従事者の高齢化が進み、策定時の人数から減少傾向にあります。

### ■市の取組

取組方針 4 大地とふれあうジオパークの保全・活用	
施 策	
	・自然と触れ合える体験学習の場として里山や森林や野山、海岸や河川を活用した各種イベントの実施や参加型学習会、ジオパークに関連した学習会を開催します。
実施内容	
	・ジオパークに関連した講演会や講座が開催され、今年度の講演会では2回、計 343 人、講座では 25 回、計 379 人の参加がありました。

取組方針 5 生物多様性保全と持続的な利用	
施 策	
	・外来生物の生息・生育状況の把握に努め、効果的な分布域の縮小方法を検討します。
実施内容	
	・田海ヶ池では外来生物の駆除活動として、今年度、地区公民館主催で小学生以上を対象に釣り大会が行われました。
	・また、訪れた釣り客からブラックバス駆除に協力をいただくため、バスポストを設置し、駆除活動の継続を行っています。

取組方針 6 暮らしが息づく農村環境の継承	
施 策	
	・イノシシやサルなどの野生鳥獣の生息情報の把握に努めると共に、情報提供及び、「糸魚川市鳥獣被害防止計画」に基づき被害防止策を推進します。
実施内容	
	・令和3年度の鳥獣捕獲頭数は、クマ 50 頭、イノシシ 415 頭であり、個体数管理を継続しています。

### 基本目標3 物を大切に使い、資源が循環するまち =資源循環=

#### ■数値目標

環境指標	策定時	目標 (2030年度)	前回 報告数値	今回 報告数値
一人1日当たりのごみ総排出量	1,005 g (2018年度)	911 g	1,035g (2020年度)	1,038g (2021年度)
一人1日当たりの家庭系ごみ排出量 (資源系のぞく)	635 g (2018年度)	551 g	679 g (2020年度)	683 g (2021年度)

#### 【詳細説明】

- ・「一人1日当たりのごみ総排出量」は、「燃やせるごみ」、「燃やせないごみ」、「資源ごみ」の総排出量を一人1日当たりに戻したごみの量です。
- ・「一人1日当たりの家庭系ごみ排出量（資源系のぞく）」は、「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」の家庭系ごみを一人1日当たりに戻したごみの量です。
- ・どちらともわずかですが増加しており、ごみの減量に向けての啓発活動が重要と考えます。

#### ■市の取組

取組方針 7 ごみの減量化・3Rの推進	
施策	
・生ごみの堆肥化や適量で無駄のない買い物等、ごみの発生抑制の啓発を行います。	
実施内容	
・今年度、食品ロス削減啓発動画として「直接廃棄ゼロの取組編」と「食べ残しゼロの取組編」の2本の動画を作成し、周知を実施しました。	

施策	
・出前講座や体験学習などを通じて、幼保小中学生や一般市民がごみの減量化やごみ処理、リサイクルの意義が理解できるように支援します。	
実施内容	
・一般財団法人上越環境科学センター主催のエコライフ出前講座が、市内の保育園や小学校などで行われ、今年度は、計16回、458人の参加がありました。	

**基本目標4 安全・安心、みんなが笑顔で暮らすまち =生活環境=**

**■数値目標**

環境指標	策定時	目標 (2023年度)	前回 報告数値	今回 報告数値
大気環境・水環境に関する環境基準値達成割合	83.3 % (15/18項目) (2018年度)	88.8 % (16/18項目)	83.3 % (15/18項目) (2020年度)	83.3 % (15/18項目) (2021年度)
環境美化パートナー団体数	14団体 (2018年度)	20団体	25団体 (2021年度)	31団体 (2022年度)
環境デーの実施地区	116地区 (2018年度)	125地区	105地区 (2021年度)	106地区 (2022年度)

**【詳細説明】**

- ・「大気環境・水環境に関する環境基準値達成割合」では、大気環境の調査項目で光化学オキシダント（Ox）、水環境の調査項目で浮遊物質（SS）と大腸菌群数が未達成でした。
- ・「環境美化パートナー団体数」は、目標数値を達成しました。
- ・「環境デーの実施地区」では、新型コロナウイルス感染症の影響や天候不順により、実施を控える地区があったため、前年度とほぼ同数となりました。

**■市の取組**

<b>取組方針 9 環境公害の継続的な監視と抑制</b>	
<b>施策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気・水環境の監視体制を維持・継続させるとともに、公害防止協定の締結に努めます。</li> <li>・継続した騒音・振動、悪臭の調査及び監視体制を維持・継続します。</li> </ul>
<b>実施内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境公害の監視として、令和3年度では、大気1地点、河川27河川、騒音18地点、振動1地点、悪臭5地点で調査を実施しました。</li> </ul>

<b>取組方針 10 非常時の安全・安心に向けた対策の強化</b>	
<b>施策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者や市民間の騒音や振動、悪臭による近隣トラブルに対して速やかな対応を図ります。</li> </ul>

**実施内容**

- ・令和3年度の公害に関する苦情総件数は、合計13件。処理件数は13件で、処理達成率は100%となっています。

**取組方針 11 自発的な環境美化・清掃活動の推進****施策**

- ・「環境デー」の実施や、「環境美化パートナー」をとおして、地域や市民、事業者による美化活動の支援・推進と、ポイ捨て・不法投棄に対する意識啓発を図ります。

**実施内容**

- ・「環境美化パートナー」の活動回数は、令和2年度20団体36回、令和3年度26団体46回、令和4年度31団体46回と5団体ずつ増えており、市民の関心が高まっています。

**基本目標5 一人ひとりが行動し、環境保全に取り組むまち =環境行動=****■数値目標**

環境指標	策定時	目標 (2023年度)	前回 報告数値	今回 報告数値
出前講座の開催数	19回 (2018年度)	25回	ごみ分別出前講座 11回 (2020年度)	ごみ分別出前講座 15回 (2021年度)
ジオパーク検定合格者数(累計)	1,803人 (2018年度)	2,100人	1,978人 (2021年度)	2,080人 (2022年度)

**【詳細説明】**

- ・「出前講座の開催数」は、コロナ禍ではありましたが、若干増加しました。
- ・「ジオパーク検定合格者数(累計)」は、糸魚川の環境に関する知識を継承するリーダーを育成するため、平成21年度から検定を実施しています。
- ・初級、上級、達人級の合計合格者数を、年平均140人と目標値を定め、2022年度の検定までで、延べ2,080人がそれぞれの級に合格し、計画値を達成しました。

## ■市の取組

取組方針 12 環境に対する意識啓発と情報提供	
施 策	・環境への意識啓発の機会として、イベントや学習会を開催します。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・今年度、海洋プラスチックの問題・課題について、市民への意識啓発及び行動変容を目的として、セミナーやイベントを全4回実施しました。</li><li>・セミナーでは、講師を招き、世界のトレンドや学術的な内容、近隣地域での実践活動など講話をいただきました。</li><li>・イベントでは、子供たちを対象に、ふるさとの海に興味関心を持ってもらい、糸魚川の豊かな海を誇りに思ってもらえるよう、参加型のイベントを開催しました。</li><li>・また、海水浴シーズンが終わる8月下旬からビーチクリーンリレーを開催し、環境美化パートナーからも参加いただき、糸魚川の海辺を綺麗にさせていただきました。</li></ul>

取組方針 13 将来の環境の担い手を育成	
施 策	・有識者や団体等と連携し、環境学習会の内容等を充実させます。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・市内の高校では、地域の課題を知り、自らが考え、解決する能力を育成する授業「総合的な探求の時間」に取り組んでいます。</li><li>・環境に関する課題に取り組む生徒への情報提供やアドバイスなど、高校へ出向き課題解決に向けてサポートを行っています。</li></ul>